

山形大学 人文学部

文化の謎と社会の秘密を、探りに探る。



未知のことばと出会うために

未知の文学史へ

利害や偏見に囚われず、未知なるものに関わることができるとすれば、あらゆる文学のことばもまた、まず何よりも「分からない」ものとして読まれなくてはなりません。一読して理解できるという思い込みを捨て、同時代の社会的言説、文化的な伝統と変容など、あらゆる要素を考慮に入れ、作品固有の「息遣い」を見出す。こうした営みを繰り返しながら、既存の日本近代文学史を書き換えていくことが、私の研究のテーマです。

谷崎も無名作家も描き直す

今年から刊行が開始された決定版『谷崎潤一郎全集』では、従来知られていなかった様々な資料を駆使して、谷崎文学の全体像を描き直す試みに参加しています（本文の編集と解題を担当）。

文学史的な位置を再検討されるべきなのは、著名作家だけではなく。かつて「近代文学不毛の地」とさえ呼ばれた山形の文学も、中央文壇に偏った文学史観から解放されたなら、いきいきとした新たな姿を見せるはず。『東北近代文学事典』（編共著）では、作家・作品の掘り起こしを進めながら、その見取り図を描きました。

これらの研究成果を、現在、そして未来の文学のために活かすことも、地域の大学に在籍する研究者として大切にしています。各施設での講演や地元文学賞の選考など、様々な機会を通じて、地域の文化活動に関わっています。

山形大学 准教授

もりおかたかし

森岡卓司



手書き原稿、初出誌、校訂ヴァリエーションを一字一句比較しての決定版谷崎全集本文の編集



ゼミ形式の卒業論文指導



地元文学賞の選考や連載記事、初学者向けテキストの発行などを通じて、地元の文学・文化に関わる研究成果を地域社会に還元